

2012.09.12

76th JPA@専修大学

文章再読過程における 比喻理解の効果

不完全文，逆転比喻文との比較からの検討

大阪市立大学大学教育研究センター
平 知宏



<mailto:cogpsy.t.taira@gmail.com>
<http://ttcp.thyme.jp/>

背景：比喻理解とその効果

人生はギャンブルのようだ.....

- 比喻は「類似性を強く認識させる」「意味を明確にする」等の語用論効果を持つ（Robert & Kreuz, 1994）。
- 比喻が単独で用いられることはほとんどなく、多くの場合比喻の前後に何らかの文脈が出現することを考えると、語用論的效果は文脈の処理と関係する？
- 比喻はそれを含む文脈の理解にどのように働きかけるか？

平・楠見（2008）

- 文章再読課題を用いて検討
 - 最初に、ある文章（比喩が含まれない）を読ませ、再度同一の文章を読む時に、比喩を用いた場合とそうでない場合それぞれの読解過程を比較した。
 - 再読時に比喩を呈示する条件（比喩文条件）に対する比較条件として、比喩の出ない状態で文章を再読させるという条件（文欠損条件）を設定。
 - 比喩を呈示することにより、文章再読時の過程に変化が現れた？

平・楠見（2008）：詳細分析

● 結果.....

- 比喩を呈示することにより，文章再読時の過程に変化が現れた？
 - 特に，呈示する比喩に関連するような文に対して読解時間に変化が見られた.
 - 「人生はギャンブルのようだ」という比喩を出すと，「どうなるかわからない」「良いことだけでなく悪いことも起こる」といったことが記述されている文の読解が遅延する.
 - 比喩の理解が伴うことにより，再読時に文内の関連情報を再走査する必要が生じる.

ただし.....

- 比喩文条件に対する比較条件が，文欠損条件.....

⇒ 比喩自体ではなく，文が新規に呈示されたことが読解に影響を与えたという解釈も可能.

▼ 何もない所に新しく比喩文が追加されたため，再読過程に得今日を与えた？ 極端なことを言えば，新しい情報なら何でもよいのではないか？

⇒ 単純に，新規に呈示された文内の単語情報のみが利用され，読解に影響を与えたという解釈も可能。

▼ 「人生」と「ギャンブル」と関連する意味情報が利用され，再読過程に影響を与えた？

初読フェイズ

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

XXXXXXXXXXXXXXXXXX

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

初読時、比喩部は無意味
な記号列が呈示される。

再読フェイズ：文欠損条件

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

XXXXXXXXXXXXXXXXXX

無意味な記号列のまま。

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

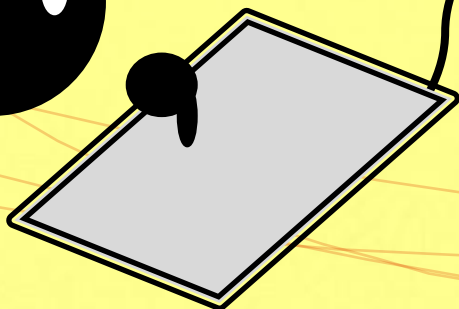
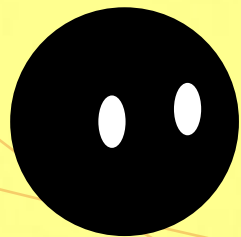
再読フェイズ：比喩文条件

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

彼女のその後の人生は、
まるでギャンブルの
ようだった。

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

あらためて
比喩文が呈示される



本実験の目的

- 平・楠見（2008）の結果を議論するため，追加条件のデータを収集する.
 - 平・楠見（2008）の結果が，新情報呈示による効果や，2対の単語呈示による効果ではなく，“**比喩文**”を呈示したことによる効果であることを検証する.
- 追加条件
 - 再読時に新規な情報を示唆するが，比喩には関わらない文を呈示する条件.
 - 比喩と同一の2対の単語を呈示するが，比喩ではない文を呈示する条件.

方法*

● 参加者

- 日本語を母語とする48名（男性36名，女性12名，平均21.4歳）.

● 材料

- 比喩的表現を含む10種類の文章.
 - 1文章14文：前説5文＋比喩1文＋ターゲット9文
 - 5文目が比喩的表現であり，5文目がなくても全体の意味は通る形式.

文章例その1

前説5文

1. 彼女が恋人と駆け落ちをしたのは、50年前のことだった。
2. 親から恋人との交際を頭ごなしに否定され、勢いで決行したのだ。
3. 以前父親が勝手に許婚とかいう男を紹介してきたことも原因だった。
4. 実家を飛び出し、恋人と2人で地方の寒村で暮らすこととなった。

比喩1文

比. 彼女のその後の人生は、まるでギャンブルのようだった。

6. 彼女の人生は、本当に何が起こるかわからなかった。
7. 2人で暮らし始めて翌年に、可愛い男の赤ん坊を授かった。
8. 毛布に包まれて眠る赤ん坊を見て、親になったんだと、彼女は強く実感した。
9. 生活は決して裕福とはいえなかったが、彼女は幸せでいっぱいだった。
10. もちろん彼女の人生には良いことばかりでなく、悪いことも起こった。
11. 赤ん坊が生まれて3年後に、夫が亡くなったのだ。
12. その時の彼女は、この先どうやって生きて行こうか、真剣に悩んだ。
13. それも今となっては良い思い出だと、彼女は思う。
14. 今、彼女は75歳の誕生日を、息子や孫達と一緒に過ごしていた。

ターゲット9文

文章例その2

前説5文

1. 幼馴染のDさんとEさんが、長い恋愛の末についに入籍を果たした。
2. 長い間2人を見てきた私は、いつ一緒になるんだろうと、ずっとヤキモキしていた。
3. 今の私の夫に、仲の良い生活を築く2人を、早く紹介したかったのだ。
4. 半年前に、入籍の報告を聞いた時は、私も我がごとのように喜んだものだ。

比喩1文

比. 彼女と彼の結婚生活は、冷蔵庫のようなものだった。

6. 2人の結婚生活には、色々なものがつまっていたのだ。
7. ありがちな新妻の焼もちや、給料日限定の贅沢など、Eから電話口で散々聞かされた。
8. DとEの仲の良い生活を、私は心から祝福していた。
9. 2人はいつまでもこんな調子なんだろうか、と私は思った。
10. だが私の予想はずれ、2人の結婚生活は、冷たくなっていったのだ。
11. 半年経った今、2人がそういう状態なのは、私としては意外だった。
12. お互いの付き合いがそもそも長いから、それもあるのかなと、私は思った。
13. 2人の今の生活を見て、CとDが結婚する前の生活を、私は思い返していた。
14. 2人の生活を参考に、私は夫にたまにで良いから、優しくしてあげようと思った。

ターゲット9文

方法

- 手続き

- 文章読解課題

- PCのディスプレイ上に実験材料が一文ずつ呈示される Self-Paced Reading形式。呈示された文を“自分のペースで”読むよう教示した。
 - **初読フェイズ**：最初に材料の第5文目に無意味な文字列（XXX）が表示され，“XXXにどんな文が当てはまるかを自由に想像しながら読むよう”教示した。
 - **再読フェイズ**：偶発課題として，参加者に対し同じ文章をもう一度読むよう求めた。材料の第5文目が比喩の主題のみが呈示された文（**不全文条件**：人生はXXX），もしくは主題と喩辞が逆転した文（**逆転比喩条件**：ギャンブルは人生のようだ）が呈示された。

初読フェイズ

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

XXXXXXXXXXXXXXXXXX

初読時、比喩部は無意味
な記号列が呈示される。

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

再読フェイズ：不全文条件

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

彼女の人生は、
XXXXXXXXXXXXXXXXXX.

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

比喻部に比喻の主題のみ
が明らかにされる。

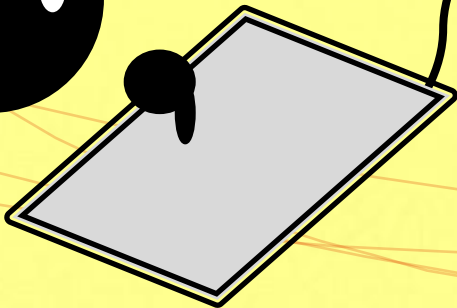
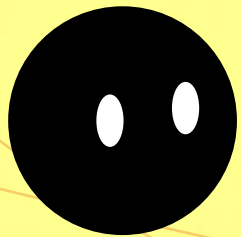
再読フェイズ：逆転比喻文条件

実家を飛び出し、
恋人と2人で
地方の寒村で
暮らすこととなった。

彼女のその後の
ギャンブルは、まるで
人生のようだった。

彼女の人生は、本当に
何が起こるか
わからなかった。

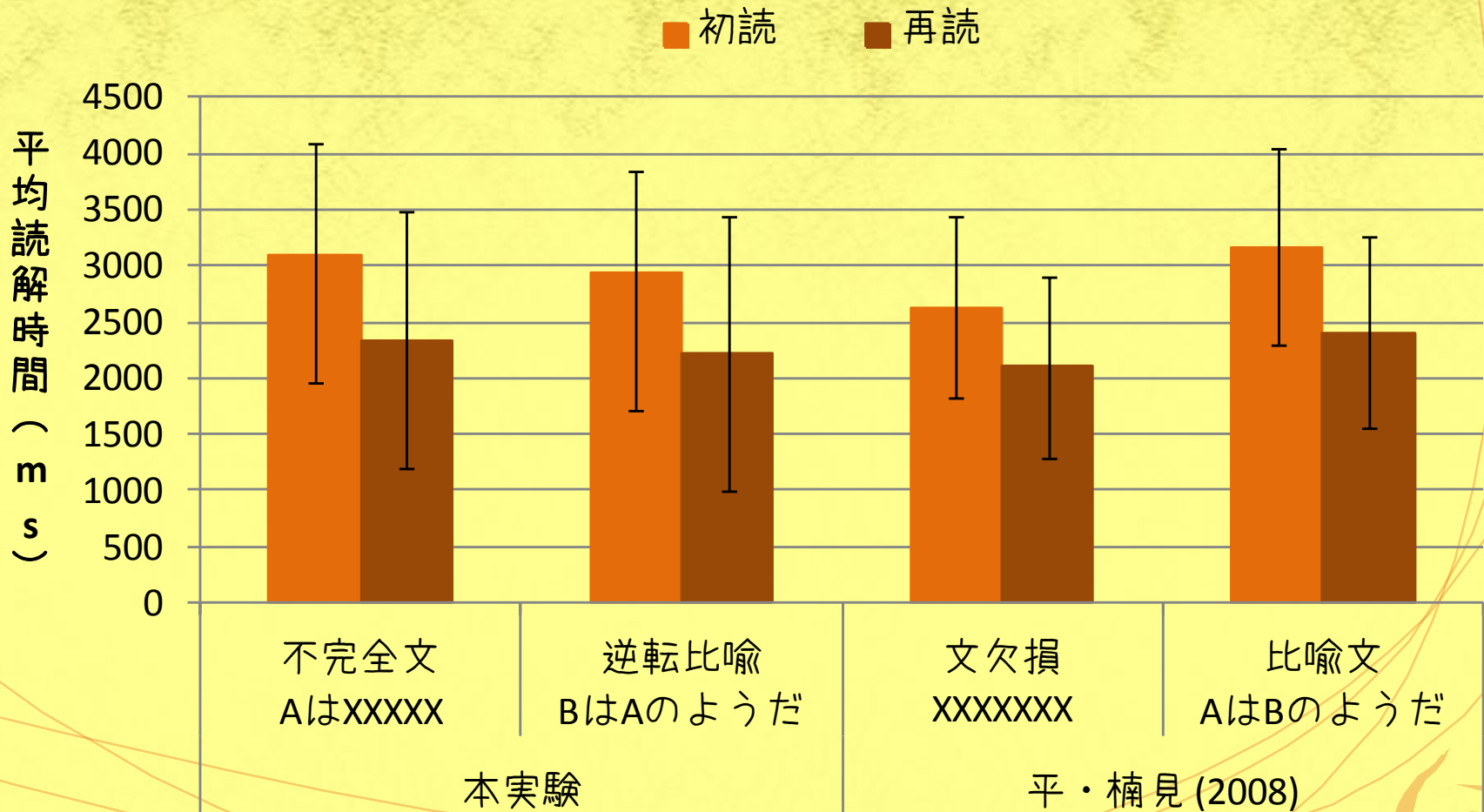
全体が呈示されるが、主
題と喩辞が逆転している。



結果の処理*

- ターゲット9文の読解時間について検討
 - ターゲット文については、以下の基準で実験未参加の5名により分類済み。
 - 意味明確文 ($\alpha=.88$)
 - その文を読むことで、5文目の比喩が理解しやすくなる文である。
 - 主題情報文 ($\alpha=.72$)
 - その文が、比喩の「主題」に関して重要な情報を述べている

結果：全体の読解時間平均



結果：各文の読解時間平均

	本実験 不完全文AはXXXXX		逆転比喻BはAのようだ		
	初読	再読	初読	再読	
意味明確文	3068	2406	2971	2434	
主題情報文	3092	2326	2976	2378	
それ以外	3111	2117	2950	2297	

	平・楠見（2008） 文欠損XXXXXXXX		比喻文AはBのようだ		
	初読	再読	初読	再読	
意味明確文	2594	1435	3306	2746	
主題情報文	2677	1310	3322	2661	
それ以外	2653	1204	3099	2286	

結果：各条件における読解の過程

- 再読時の読解時間を従属変数とした重回帰分析を実施.

《説明変数》

- 意味明確文であるかどうか（ダミー：1/0）
- 主題重要文であるかどうか(ダミー：1/0)
- 文の出現順位（通常，前に出現するほど遅延）
- 文の文字数（通常，文字が多いと遅延）
- 初読時の読解時間

結果：平・楠見（2008）

	文欠損条件		比喩文条件	
	β係数	t値	β係数	t値
意味明確文	.10	.88	.09	2.46 *
主題情報文	.09	-.58	.08	.07
文の出現順位	.10	-3.02 **	.09	-3.24 **
文の文字数	.12	-.07	.10	1.07
初読時の読解時間	.11	5.54 ***	.10	5.09 ***
	調整済みR ² = .52		調整済みR ² = .56	
N=90				

比喩文条件において、意味明確文が遅延することがわかった。

⇒ 比喩の意味を明確にするような文中の情報に対して、参加者の読解時の注意が選択的に働いていることを示唆する？

⇒ 文欠損条件では、上記のようなことは見られないことから、比喩文特有の効果と考えられる。

結果：本実験

	不完全文条件		逆転比喻条件	
	B係数	t値	B係数	t値
意味明確文	.10	1.39	.09	1.98 †
主題情報文	.09	-.53	.08	-.56
文の出現順位	.10	-1.83 †	.09	-3.88 ***
文の文字数	.12	1.42	.10	.93
初読時の読解時間	.11	4.97 ***	.09	6.27 ***
調整済み $R^2=.48$			調整済み $R^2=.62$	
N=90				

逆転比喻条件において，意味明確文が遅延する傾向を示した。

⇒ 比喻文条件と類似することが生じている，すなわち意味情報に基づく処理が行われている。ただし，その効果は比喻文条件よりも弱いことから，意味の通る比喻文であることが重要？

⇒ 不完全文条件では文欠損条件同様，効果なし。

まとめ

- 平・楠見（2008）の結果は比喻文を呈示したことによる効果である。
 - 文章の再読過程において、比喻を呈示することで、それと関連する文の読解は遅延する。
 - 新情報呈示による効果や2対の単語呈示による効果ではなかった。
- 上述のような効果は、意味明確文の身に見られ、主題情報文に見られなかったことから、あくまでも比喻の理解を行うために文脈情報が利用されたと言える。

今後の課題

- 記憶過程との関係について.
 - 比喻を用いた文章は，記憶に残りやすくなる（再読課題の成績が上昇：平, 2007）.
 - 読解が遅くなる⇒選択的に注意が向くことにより，内容がよく覚えられている可能性？
- 再読課題ではない文章読解課題との関係.
 - 平（2007）：非再読課題. 比喻を含む文章は，含まない文章より，**読解時間がはやくなる**（特に親しみのある比喻の場合に，その傾向が顕著である）.